islonline

# 常駐接続(ISL AlwaysOn)マニュアル

# ISL AlwaysOn



# 目次

1		ISL	AlwaysOn とは	. 4
2		イン	ノストール方法	. 5
3		常馬	主接続の利用方法	. 7
	3. 1	=	コンピューターへ接続する	. 8
	3. 2	持	- 妾続オプションを利用する	10
	3. 3	=	コンピューターを検索する	15
	3. 4	1	ブループを作成して端末を管理する	16
	3. 5	Ŧ	<sup> </sup>   用状況を確認する	19
	3. 6	4	その他	20
4		タフ	スクトレイ(システムトレイ)のメニュー説明	27
5		設定	₹	30
	5. 1	基	基本設定	30
	5. 2	-	デスクトップ共有	35
	5.3	-	ファイル共有	38
	5.4	Ē	羊細設定	43
6		ISL	Always0n を大量に展開する	50
	6. 1	+	ナイレントインストール	51
	6.	1. 1	インストーラーの作成方法	52
	6.	1. 2	レジストリ変更スクリプトの作成方法 <b>WIN</b>	56
	6.	1.3	プロキシ設定の展開方法	58
	6. 2	1	フローニング <b>WIN</b>	60
	6.	2. 1	マスターPC の複製前に固有の ID を設定する方法	61
	6.	2. 2		
	6.3	_	-斉グルーピング	63
7		ISL	Always0n のアップグレード方法	66
	7. 1	-	プッシュアップグレード	69
	7. 2	É	自動アップグレード	70
	7. 3	+	ナイレントインストールによる上書き	71
	7. 4	7.	ナンラインページ上でのアップグレード	72
	7. 5		<b>ヾージョン情報からアップグレード</b>	
	7. 6	7	アップグレード通知からアップグレード	73
8		アン	ノインストール方法	74

# 本マニュアルについて

本マニュアルは、現在公開している最新版のプログラムを基に作成しています。プライベートクラウドライセンス、オンプレミスライセンスで最新版でない ISL Conference Proxy をご利用の場合は、一部文言・画像が異なる場合がございます。また本マニュアルで使用している画像は、Windows OS のものです。mac OS・Linux OS をご利用の場合は、一部画像が異なる場合がございますのでご了承ください。

一部の機能は以下のアイコンがある OS でのみ利用可能です。

・ **WIN**: Windows OS でのみ利用可能

· Mac : Mac OS でのみ利用可能

· Linux OS でのみ利用可能

#### 1 ISL AlwaysOn とは

ISL Always0n はメンテナンスやテクニカルサポートが必要な遠隔地・無人の端末への自由なアクセス(常駐接続)を可能にし、業務を大幅に効率化するリモートサポートツールです。

インターネット上に設置されたサーバーを利用する「パブリッククラウドライセンス」と「プライベートクラウドライセンス」、自社サーバーを使用する「オンプレミスライセンス」があります。プライベートクラウドライセンスについては「オンプレミスライセンス」の設定をご参照ください。

#### 動作環境

※ 最新の動作環境および詳細は、以下のページをご参照ください。 https://www.islonline.jp/features/requirements.html

#### 対応 OS

#### Windows:

Windows 10 (32bit および 64bit) / 11 Windows Server 2016 / 2019 / 2022

#### Mac:

macOS Mojave / Catalina / Big Sur / Monterey / Ventura / Sonoma / Sequoia Linux:

Ubuntu 20.04 LTS - 22.04 LTS (64bit) ※いずれも「X Window System」のインストールが必要です。

#### 通信環境

- · 通信速度: 256Kbps (DSL) 以上
- ・通信ポート:外向きの TCP ポート 7615、443、80 のいずれか 内向きの UDP ポート 2304 (Wake On LAN 機能を使用する場合)
- ・ その他

パブリッククラウドライセンス: ドメイン「\*. islonline. net」に対する接続許可 プライベートクラウド、オンプレミスライセンス: 対象サーバーに対する接続許可 プロキシ環境で使用する場合、ISL AlwaysOn 上で設定が必要(詳細は 5.4 をご参照ください)

#### 2 インストール方法

ここでは、1台ごとにインストールを行う、一般的なインストールの方法を説明します。

- ※ ISL AlwaysOn をインストールする端末が多い場合はサイレントインストールやクローニングでの展開を推奨しております。詳細は6をご参照ください。
  - 1. オンラインページにログインします。

## ■パブリッククラウドライセンスの場合

https://www.islonline.jp/ にアクセスし、右上の[ログイン]を選択してユーザー名とパスワードを入力します。

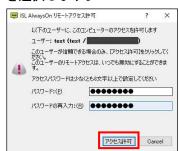
#### ■オンプレミスライセンスの場合

<u>http://<サーバーの IP アドレスまたはホスト名:ポート番号>/</u> にアクセスし、画面右上の [ログイン] を選択してユーザー名とパスワードを入力します。

- 2. [常駐接続]を選択します。
- 3. [常駐接続をセットアップ]-[このコンピューターを追加]を選択して、ISL Always0n のインストール用プログラムをダウンロードします。
- 4. ダウンロードしたプログラムを実行します。 [次へ]を選択するとインストールを開始します。

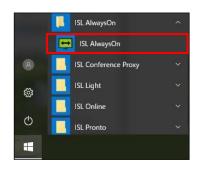


- 5. 「セットアップが完了しました」のメッセージが表示されたら、[完了]を選択します。
- 6. セットアップ完了後、「ISL AlwaysOn リモートアクセス許可」ダイアログが表示されます。 半角英数8文字以上のパスワード(大文字小文字を区別します)を設定し、[アクセス許可] を選択します。

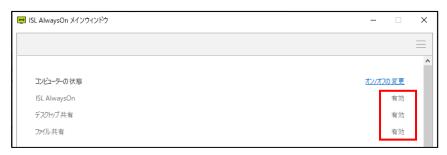


7. タスクトレイのアイコンまたはスタート画面から[ISL Always0n]を選択して、メインウィンドウを表示します。





8. 「コンピューターの状態」のオプション(ISL AlwaysOn、デスクトップ共有、ファイル共有)が全て「有効」に、「オペレーター」に登録したユーザー名が表示されていればインストール完了です。「オペレーター」には何も表示されない場合は、前述の手順をもう一度行ってください。



#### 3 常駐接続の利用方法

常駐接続を行うためには、ISL Light のプログラムを使用します。ISL Light はオンラインページ上から都度ダウンロードして利用する方法と、接続を行う端末にインストールして利用する方法があります。本マニュアルではオンラインページ上からの利用方法を記載しています。ISL Light の利用方法および詳細は、別紙『ISL Light マニュアル』をご参照ください。

オンラインページ上から常駐接続を利用するためには、はじめにログインを行う必要があります。オンラインページでは常駐接続を行うほかにも、クライアント端末に対するさまざまなアクションの実行や「ワンタイム接続」画面からセッションの中止、一時停止、再開ができます。また、ログインしているユーザーのプロフィールの変更や製品の使用履歴なども確認できます。

#### オンラインページへのログイン方法

# ■パブリッククラウドライセンスの場合

https://www.islonline.jp/ にアクセスし、右上の[ログイン]を選択してユーザー名とパスワードを入力します。

#### ■オンプレミスライセンスの場合

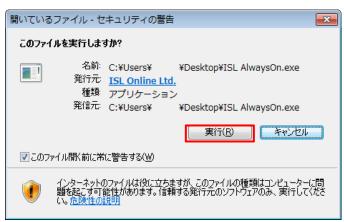
<u>http://<サーバーの IP アドレスまたはホスト名:ポート番号>/</u> にアクセスし、画面右上の[ログイン]を選択してユーザー名とパスワードを入力します。

#### 3.1 コンピューターへ接続する

- 1. [常駐接続]を選択します。
- 2. ISL Always0n がインストールされているコンピューターの一覧が表示されます。 接続したいリモートコンピューターの[接続]を選択します。



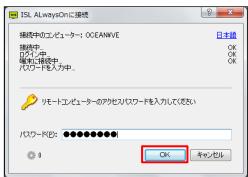
- 3. ダウンロードされた接続用プログラム (ISL Light) を実行します。
  ([▼]-[接続(以前のバージョン)]からは ISL AlwaysOn Connect がダウンロード可能)
- 4. Windows の場合、「セキュリティの警告」ダイアログが表示されることがあります。ダイアログが表示された場合は、[実行]を選択します。
  - ※ 設定環境や使用しているブラウザによって、表示されるダイアログが異なります。



- 5. インストール時に設定したアクセスパスワードを入力し、[接続]または[OK]を選択します。
  - ■「ISL Light」の場合

# ■「ISL AlwaysOn Connect」の場合



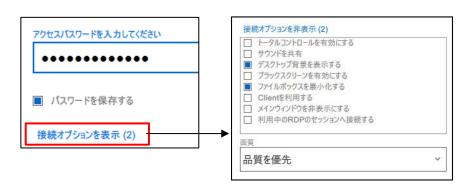


- ※ アクセスパスワードの入力に5回失敗すると、プログラムが終了します。 再度プログラムを実行して接続を行ってください。
- ※ [パスワードを保存する]にチェックを入れた場合、次回以降アクセスパスワードの入力が不要になりますが、接続オプションは変更できなくなります。オンラインページのアクション (3.6 参照) あるいは設定 (5.1 参照) よりアクセスパスワードを変更することで、パスワードの保存を解除できます。
- 6.接続が開始され、デスクトップ共有が自動的に始まります。

# 3.2 接続オプションを利用する

アクセスパスワードの入力時に、接続に関するオプションを指定することができます。利用する 場合は、 [接続オプションを表示] からオプションを選択して接続を行います。

※ 接続オプションの設定内容は、実際に接続を開始すると保存されます。接続を行わずに設 定のみを変更する場合は、[アクション]-[オプション]から操作します。



Client を利用する	接続後、クライアント端末上に ISL Light Client (メニュー画
	面)およびツールバーを表示します。
ブラックスクリーンを有効	接続後、クライアント端末の画面をブラックスクリーンにしま
にする**1	す。
デスクトップ背景を表示す	接続後、クライアント端末のデスクトップ背景を表示します。
<b>ত</b>	
ファイルボックスを最小化	接続後、クライアント端末のデスクトップ上の「ファイルボッ
する**2	クス」を非表示にします。
利用中の RDP のセッション	クライアント端末の RDP 接続(Remote Desktop Protocol/リモ
へ接続する**1	一ト デスクトップ プロトコルで接続中のセッション)に対し
	て、接続を行います。詳細は後述の説明をご参照ください。
メインウィンドウを非表示	接続後、クライアント端末のデスクトップ上に ※ ※
にする**1	接続中であることを通知するミニウィンドウ ステール 大分の
	(右)を表示します([Client を利用する]と併用する必要があ
	ります)。
	※オンプレミスライセンスで ISL Conference Proxy
	4. 4. 1816. 71 以降ヘアップグレードを行う際、アップグレード
	前のバージョンでこのオプションを有効にしていた場合はアッ
	プグレード時にチェックが外れます。
サウンドを共有 <sup>※1</sup>	接続先の音声が共有できます。サウンドを共有するためには、
	接続先が音声出力デバイスを有している必要があります。

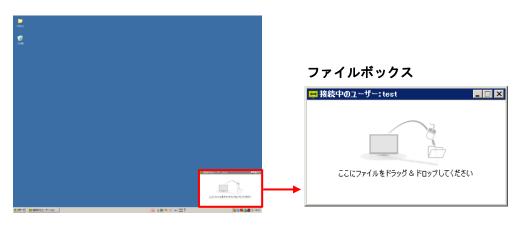
トータルコントロールを有	接続後、クライアント端末のマウスとキーボードの使用を禁止
効にする <sup>*1 *2</sup>	します。
画質	「品質を優先」「速度を優先」を含むオプションが選択できます。
	品質を優先
	速度を優先
	ISSC圧縮 (推奨)
	ハイカラー (Triple 60% - 品質を優先)
	ハイカラー (Dual 60%)
	ハイカラー (Triple 15%)
	ハイカラー (Dual 15%)
	フルカラー (Triple 60%)
	フルカラー (Dual 60%)
	フルカラー (Triple 15%)
	フルカラー (Dual 15%)
	ZRLEE
	フルカラー
	ハイカラー
	256色 (速度を優先)
	64色

- ※1 クライアント端末が Windows の場合のみご利用になれます。
- ※2 オンプレミスライセンスのみご利用になれます。Linux の場合ご利用になれません。

# 「Client を利用する」オプションについて

ISL AlwaysOn では必要な各種プラグインをあらかじめ含んだプログラムを利用することで、接続時間の短縮(高速化)を実現しています。高速接続を行うには[Client を利用する]のオプションは無効になっている必要があります。

高速接続ではクライアント端末のデスクトップ画面に「ファイルボックス」が表示されます。ファイルボックスにファイル(フォルダー)をドラッグ&ドロップすると、クライアント端末からファイル(フォルダー)を転送できます。転送されたファイルは、ファイル転送で指定した受信ファイルの保存先に保存されます。クライアント端末にファイルを転送した場合は、デスクトップ上にファイルが保存されます。



高速接続の場合、ISL Light のツールバーおよび ISL Light Client のメニュー画面は表示されないほか ISL Light Client の一部の機能がご利用いただけないため、これらの機能を利用する際はこのオプションにチェックを入れます。ISL Light Client の詳細は『ワンタイム接続 (ISL Light Desk & ISL Light Client) マニュアル』をご参照ください。

#### 「ブラックスクリーンを有効にする」オプションについて

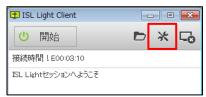
オプションがオンになっている場合は、画面共有の開始と同時にクライアント端末のデスクトップ画面を黒表示にして、相手に操作内容を見せないようにすることができます。ブラックスクリーンはクライアント端末側で ESC キーを押すと数秒後に解除されます。

#### ➡ (補足)

- ※ クライアント端末が Windows の場合のみご利用になれます。
- ※ 接続先がWindows 8以上、Windows Server 2012以上の場合、このオプションを有効にして接続を開始すると、OSのロック画面に接続される場合がございます。
- ※ サインイン/サインアウト時やロック画面への切り替え、[Ctrl + Alt + Del]キー押下時など、Windows セッションが切り替わる際にブラックスクリーンが一時的に無効になります。
- ※ ブラックスクリーン上にオペレーターのマウスカーソルの動きが表示されます。
- ※ Windows 7 の端末では、スタートメニューやタスクトレイ選択時にブラックスクリーンが 一時的に無効になります。
- ※ ISL Light 4.4.2234.73 かつ ISL AlwaysOn4.4.2234.53 以降のバージョンでは、ブラックスクリーン実行に必要なドライバーのインストールが不要になりました。(接続先がWindows7以外の場合) それ以前のバージョンでは、Windows 8 以上、Windows Server 2012以上の端末への接続で[Client を利用する]の接続オプションを使用して常駐接続を行う場合、ブラックスクリーンの実行には初回のみクライアント端末に専用のドライバーをインストールする必要があります(インストールには管理者権限が必要です)。また、Windows 10 の大型アップデート(バージョン 1607: Anniversary Update)以降に初期インストールされた端末では、利用できません。

#### ■ドライバーのインストール

- 1. セッションを開始します。
- 2. クライアント端末のチャットウィンドウの[設定] を選択します。
- 3. メニューから[デスクトップ共有]を選択し[ドライバーの再インストール]を選択してインストールを行います(UACを有効にしている場合は、インストール時にメッセージが表示される場合があります。[はい]を選択してインストールを許可してください)。

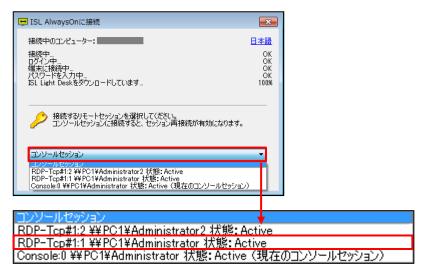




#### 「利用中の RDP のセッションへ接続する」オプションについて

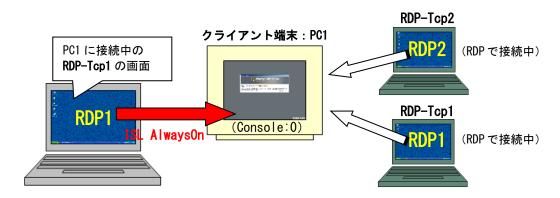
クライアント端末に対して RDP 接続(Remote Desktop Protocol/リモートデスクトッププロトコル)を行っている端末へ常駐接続ができます。

- ※ クライアント端末の[設定]-[詳細設定]-[RDP のセッションへの接続]-[利用中の RDP のセッションへの接続を許可する]が有効になっている必要があります。
- ※ RDP 接続を行っている端末への接続でセッション再接続を利用する場合は、接続オプション[Client を利用する]を有効にした上で接続を開始してください。
- ※ 接続対象となる RDP セッションのウィンドウがタスクトレイに格納(最小化)されていると、接続が正常に行えません。
  - 1. [利用中の RDP のセッションへ接続する] にチェックを入れ、常駐接続を開始します。
  - 2. アクセスパスワードの入力後、接続先のセッションを選択する画面が表示されます。
  - 3. プルダウンよりセッション (RDP 接続) を選択後、[OK]を選択します。



#### ※RDP 接続表示名:

RDP-Tcp#(接続回数): (セッション ID) ¥¥ (PC 名またはドメイン名) ¥ (ユーザー名) 4. クライアント端末へ RDP 接続を行っている端末へ接続されます。



# 3.3 コンピューターを検索する

常駐接続画面に表示されている接続先の一覧から、任意のコンピューターを検索します。 検索バーに条件(例:コンピューター名の一部、タグなど)を入力すると、条件に合致するコン ピューターが表示されます。



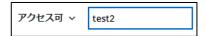
- ※ 画像はオンプレミスライセンスのものです。
- ※ タグの後方一致による常駐接続のコンピューター検索では、検索文字列の前にワイルドカード(\*)を付ける必要があります。
- ※ ISL Conference Proxy のバージョンが 4.4.2210.45 をご利用の環境では、IP アドレスによる端末の検索がご利用いただけません。その前後のバージョンでは検索可能です。後方一致による検索を行う場合は、タグでの検索と同様にワイルドカード(\*)が必要です。

### 検索パラメーターについて

常駐接続先として登録された端末の検索を行う際に、「タグ」「アクセス権」「所有者」の条件で 検索を行うことができます。「タグ」はコンピューターにタグを設定した場合に表示され、プル ダウン形式で端末の絞り込みが可能です。

#### ■条件検索の例

例 1: ユーザー「test1」がユーザー「test2」に対してアクセスを許可している端末を検索 オンラインページに「test1」でログイン後、検索パラメーターの[アクセス可]欄に「test2」 を入力して Enter キーを押します。



例 2: ユーザー「test1」がユーザー「test3」からアクセスを許可されている端末を検索 オンラインページに「test1」でログイン後、検索パラメーターの[次のユーザーが所有]欄に 「test3」を入力して Enter キーを押します。



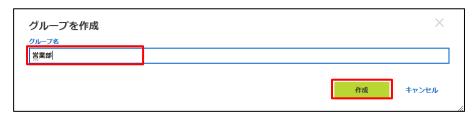
# 3.4 グループを作成して端末を管理する

グループを作成すると複数の端末を条件ごとに分類し、一括して端末の管理を行うことができます。

- ※ コンピューターは、それぞれ特定の1グループにのみ所属させることができます。
- ※ コンピューターの特定に複数の要件が必要な場合は、タグと合わせてご利用ください。
- ※ ログイン中のユーザーが所有するコンピューター、またはコンピューター管理者(後述) 以上の権限を持つ端末を分類できます。

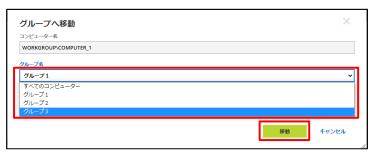
# 新規グループを作成する

- 1. [常駐接続]-[グループを作成] を選択します。
- 2. グループ名を入力し、[作成]を選択します。



# 端末をグループへ移動する

- 1. グループに移動する端末の[アクション]-[グループへ移動]を選択します。
- 2. プルダウンより移動先のグループを指定して、[移動]を選択します。



3. 選択した端末が指定先のグループへ移動されます。 グループへ分類された端末のアクションには[グループから削除]が追加されます。 端末がグループから削除されると、再び「すべてのコンピューター」に表示されます。

# グループを共有する

オンプレミスライセンスかつ ISL AlwaysOn 4.4.2031.44 以降では、他のユーザーグループへ端末のグループを共有できます。共有されたグループに新規端末を追加する場合は、その端末も自動で共有されます。

- ※ オンプレミスライセンスの場合、他のユーザーへグループを共有するには、事前に ISL Conference Proxy 管理画面での設定が必要です。なお、ユーザーグループへの共有には設定は必要ありません。詳細は、『ISL Conference Proxy 管理者ページ操作マニュアル』をご参照ください。
- 1. [常駐接続]を選択します。
- 2. 共有するグループの[アクション]-[共有]を選択します。



- 3. グループを「ユーザー」に共有するか、「ユーザーグループ」に共有するかを選択します。
- 4. グループを共有するユーザーもしくはユーザーグループにチェックを入れ、権限を設定します。



グループ管理者	共有端末への接続、端末の編集・移動、共有ユーザーの権限管	
	理およびアクションの実行ができます。	
コンピューター管理者	共有端末への接続、端末の編集・移動およびアクションの実	
	行ができます。	
接続のみ	共有端末への接続およびアクションの実行ができます。	

- 5. [共有]を選択します。
- ※ グループの削除を行う場合は、共有設定を解除する必要があります。
- ※ 権限の設定は、ISL Light 上からも変更可能です。

# 3.5 利用状況を確認する

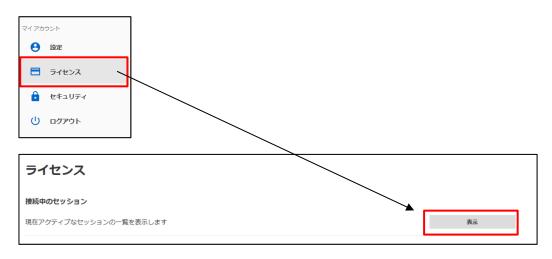
# 現在利用中のセッションを確認/切断する

自身を含む全ユーザーの現在利用中のセッション状況 (ワンタイム接続、常駐接続) が確認できます (オンプレミスライセンスの場合、別途 ISL Conference Proxy での事前設定が必要です)。

- 1. メニューから[接続中のセッション]を選択します。
- 2. セッションを強制的に切断する場合は、切断したいセッションにチェックを入れ、 [選択したセッションを終了]を選択します。



※ パブリッククラウドライセンスをご利用の場合は、メニューから[ライセンス]-[接続中のセッション]からご確認いただけます。



# 製品の使用履歴を確認する

常駐接続(ISL AlwaysOn)の使用履歴は、ワンタイム接続(ISL Light)内に記録されます。

- 1. メニューから[履歴]-[ワンタイム/常駐接続(ISL Light の利用状況)]を選択します。
- 2. セッションの履歴が表示されます。



- ※ ツールボタンの詳細は、『ISL Light マニュアル』をご参照ください。
- ※ 画像はオンプレミスライセンスのものです。パブリッククラウドライセンスの詳細は、 『アカウントページマニュアル』をご参照ください。
- ※ オンプレミスライセンスのセッション履歴は ISL Conference Proxy の管理画面でも確認できます。詳細は、『ISL Online Conference Proxy 管理者ページ操作マニュアル』をご参照ください。

#### 3.6 その他

# オンラインページのフィールドについて

常駐接続							
Q コンピュータ-	一を検索			常用	主接続をセット	アップ~ グループ	を作成 一括操作 ~
すべてのタグ ~	アクセス可 ~ ユー	ザー名	次のユーザーが所有 > ユーザー名	クリア			
グループ	アクション		詳細	状態	種類	IP アドレス	アクション
すべてのコンピ □4	ューター	- <b>-</b>	WORKGROUP\COMPUTER_1 □1 &1 Ø2 □ 1	接続中	共有		接続 ~
グループ <b>1</b> □1 81	≡	- <u>-</u>	WORKGROUP\COMPUTER_2	オンライン	所有		接続 ~
グル <b>ープ 2</b> 83	≡	- <u>-</u>	WORKGROUP\COMPUTER_3 且 1	オンライン	所有		接続 ~
		- <u></u>	WORKGROUP\COMPUTER_4	オフライン	共有		WOL送信

グループ	
グループ名	すべてのコンピューターおよび作成したグループの名称が表示されます。
	コンピューターアイコンの数字はグループに含まれる端末数、人間アイコン
	の数字は端末を共有しているユーザー数を表します。
アクション	詳細は後述の「オンラインページのアクションについて」をご参照ください。

接続先のコンピューター				
アイコン	オンライン端末は緑色、オフライン端末はグレー色に表示されます。			
	ユーザーが接続中の時はアイコンが変わります。			
詳細	ISL Always0n をインストールした際のコンピューター名 (mac0S の場合はロ			
	一カルホスト名、Linux の場合はホスト名)が初期値で設定され、その他に			
	タグ、共有情報、接続中のユーザーなどが表示されます。アイコンをマウス			
	オーバーすると詳細な情報を確認できます。			
	技術部検証用PC			
	□: 所属グループ 🚨: 共有ユーザー 🖉: タグ 🕞: 接続中のユーザー			
状態	端末の状態(オンライン/オフライン/接続中)が表示されます。			
種類	ログインしているユーザーが所有している端末は「所有」、他のユーザーか			
	ら共有された端末は「共有」と表示されます。			
IPアドレス	端末の IP アドレスが表示されます。パブリッククラウドライセンス、もし			
	くは ISL Conference Proxy との通信に外部のネットワークを介する場合は			
	外部 IP アドレス、プライベートネットワーク上での通信の場合は内部 IP ア			
	ドレスが表示されます。			

# オンラインページのアクションについて

常駐接続の開始だけでなく端末やグループの編集や削除、またアップグレードやシャットダウンなどの様々な操作が行えます。



リスト右上の[一括操作]からは、チェックボックスで選択した複数のオンライン端末に対して一斉にアクションを実行することが可能です。



グループ			
編集	グループ名を変更できます。		
共有	自身が所有するグループおよびグループ内にある端末を他のユーザー		
	/ユーザーグループへ共有します。また、グループの共有ではユーザー		
	/ユーザーグループごとに権限が設定可能です(3.4参照)。		
削除	グループの削除を行います(グループにコンピューターが存在する、		
	またはグループを他のユーザーへ共有中は削除できません)。		
接続先のコンピュータ	· —		
接続	リモートコンピューターに接続を行います。		
	選択すると ISL Light (接続用プログラム) がダウンロードされます。		
接続(以前のバージ	ISL AlwaysOn Connect のダウンロードを行います。		
ョン)			
エージェント	クライアント端末がオンライン状態の時に、ISL Always0n のバージョ		
アップグレード	ンを最新にアップグレードします(クライアント側へポップアップな		
	どの通知は行いません)。またクライアント端末で自動アップグレー		
	ドの設定が有効になっていない場合は、実行後に「エージェントのア		
	ップグレードを開始しました。」のメッセージが表示されますが、ア		
	ップグレードは行われません。		
WOL 送信	ネットワーク経由で、リモートコンピューターを起動 (Mac の場合はス		
	リープモードを解除)できます。		
	WOL 送信には、利用条件の確認や事前の設定が必要となります。詳細は		
	『ISL AlwaysOn Wake On LAN 設定ガイド』をご参照ください。		
	※ISL Conference Proxy 4.4.2234.132からは、1度に実行できるの		

	は最大5台までになりました。送信処理がエラーまたは正常に完了す
	ると追加で実行できるようになります。
編集	コンピューター情報の編集を行います。
	・コンピューター名:「ドメイン¥コンピューター名」で表示されます。
	・詳細:常駐画面に表示するコンピューター名です。
	・タグ:端末検索時の絞り込み用タグです。
共有	所有する端末を他のユーザー/ユーザーグループへ共有します。
	共有されたユーザー、もしくはユーザーグループに所属するユーザー
	にはコンピューターの編集、移動、削除などの権限はありません。こ
	れらの権限を持たせるには、端末をグループに追加し、そのグループ
	を共有します (3.4 参照)。
パスワードを変更**1	端末へのアクセスパスワード(メインパスワードおよび個別パスワー
<b>*</b> 2	ド)が変更できます。パスワードの変更には、現在のメインパスワー
	ドの入力が必要になります(5.1参照)。
所有者を変更	登録を行うユーザーでのログインやインビテーションコードの入力な
	どが必要なく、あるユーザーに既に紐づいている端末を他のユーザー
	へ簡単に引き渡すことができます。所有者を変更すると、変更前のユ
	ーザーの端末一覧からは削除されます。
	共有されたグループ内の端末は、グループが所有者に設定されます。
	※所有者に管理者 (admin) は指定しないでください。
再起動/シャットダ	端末の電源管理(シャットダウンおよび再起動)ができます。
ウン*2 *3	
EXE 実行 WIN **2	クライアント端末上の指定フォルダーに保存されたプログラム (. exe)
	を実行します。
共有ファイル <sup>※2</sup>	共有ファイルにアクセスします (5.3 参照)。
履歴	コンピューターに接続した履歴を表示します。
	履歴は期間を指定して表示できます。
システム情報	実行すると、端末のシステム情報を取得して情報を表示します。
グループへ移動	端末を指定したグループへ移動します。※グループが存在する場合の
	み表示されます。
グループから削除	端末がグループに所属する場合のみ表示されます。
削除	選択したコンピューターを常駐接続の一覧から削除します。

- \*\*i・コンピューターの状態「ISL AlwaysOn」が無効のクライアント端末へは実行できません。
  ・macOS の場合、オンラインページからパスワードの変更が正常に動作しません。パスワードを変更する場合は、ISL AlwasyOn の設定から直接変更してください。
- \*\*2 オンデマンドモードでご利用のクライアント端末へは実行できません。
- ※3 対象の端末が MacOS の場合、再起動/シャットダウンが正常に動作しません。

# 共有機能について

- 1) オンプレミスライセンスで共有機能を有効にするには、事前に ISL Conference Proxy の管理画面で設定を行う必要があります。
- 2) 共有は、複数の端末に対して一斉に設定(登録/解除)することもできます。
- ※ 共有機能の詳細は 6.3 をご参照ください。

#### パスワードの一斉変更について

複数のクライアント端末のアクセスパスワードを一斉に変更する場合は、以下の手順に従って ください。

- 1. パスワードを変更する端末にチェックを入れます。
- 2. 右上の[一括操作]-[パスワードを変更]を選択します。



- 3. [メインパスワード(任意)]に選択した端末に共通するメインパスワードを入力します。
- 4. [個別パスワード]または[メインパスワード]を選択し、新しいパスワードを入力します。※初期設定でご利用中の場合は[メインパスワード]を選択してください
- 5. [変更]を選択します。
- 6. パスワードの変更が正常に完了した端末は、状態に「完了」と表示されます。 ※メインパスワード(任意)を入力していない、または入力したパスワードが変更を行う端 末のメインパスワードと合致しない場合はメインパスワードの再入力を求められます。対 象の端末が現在使用しているメインパスワードを入力して[送信]を選択すると、再び変更 処理を開始します。

# EXE 実行について WIN

EXE 実行を行うにはあらかじめクライアント端末の以下の場所に「trusted」という名前のフォルダーを作成し、その中に実行するファイル (.exe) を保存しておく必要があります。

#### ■32bit OSの場合

C:\Program Files\ISL Online\ISL AlwaysOn

#### ■64bit OSの場合

C:\Program Files (x86)\ISL Online\ISL AlwaysOn

- ※ ファイルの実行は、クライアント端末にログオンしているユーザーアカウントではなく「システムアカウント」で行われます。
- ※ ファイルは半角スペースのない名称に変更してください。
- 1. 実行先の端末のアクセスパスワードを入力します。
- 2. 「引数」欄に実行する exe の名前を入力し、[EXE 実行]を選択します。
- 実行が完了すると、メッセージ「Command ok」が表示されます。
   再度 EXE 実行を行う場合は[EXE 実行]、終了する場合は[閉じる]を選択します。

# 4 タスクトレイ(システムトレイ)のメニュー説明

タスクトレイのアイコンから、ISL AlwaysOn に関する各項目が選択できます。

※ タスクトレイのアイコンは、Windows リモートデスクトップ接続によるログオン(サイン イン)を行った場合は表示されません。アイコンが表示されない状態でも、プログラムの 動作には問題ございません。



接続オプション[Client を利用する]を利用しない接続では、接続中に「接続中のセッション」が選択可能です。ここではコンピューターに接続中のオペレーターを確認できるほか、セッションを終了することもできます。



# メインウィンドウ

ISL Always0n に関する設定の概要が確認できるほか、端末へのアクセス履歴の検索やエクスポートを行うことができます。

各項目の説明は、以下をご参照ください。

コンピューターの状態 : 5.1 オペレーター : 5.1 ファイル共有 : 5.3 アクセス履歴 : 5.4



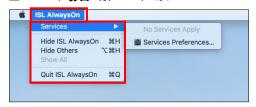
またメインウィンドウのメニューからは言語変更のほか、設定画面やヘルプの表示などを行う ことができます。

# ■ Windows - Linux の場合

※Mac の場合、バージョン 4. 4. 2116. 69 以降は以下のメニューから操作可能です



# ■ Mac の場合 ※バージョン 4.4.2031.44 まで



設定	ISL Always0nの設定画面を開きます。
	詳細は5をご参照ください。
言語	ISL Always0n で使用する言語を変更します。
	※日本語以外での動作確認およびサポートは行っておりま
	せん。
ヘルプ	ISL Online 製品のサポートページにジャンプします。
バージョン情報	ご利用の ISL AlwaysOn のバージョンを確認できます。
オフラインモード	オフラインモードに切り替えます。オフラインモードの詳
	細は後述の説明をご参照ください。
Hide ISL Always0n Mac	製品のメインウィンドウを非表示にします。
(ISL Always0n を非表示)	(Doc 上の製品アイコンを選択すると再表示します)
Hide Others Mac	デスクトップ上の ISL Online 製品以外のソフトウェアの
(ISL Always0n 以外を非表示)	ウィンドウを全て隠します。
Show All Mac	[Hide Others]で隠したウィンドウを、再びデスクトップ
(すべて表示)	上に表示します(Doc 上の製品アイコンを選択すると再表
	示します)。
Quit ISL AlwaysOn Mac	接続を終了し、製品のメインウィンドウを閉じます。
(ISL AlwaysOn を終了)	

<sup>※</sup> Mac の場合は、メニューが英語で表示されます。

# バージョン情報

現在インストールされている ISL AlwaysOn のバージョンと アップグレードの確認ができ ます。

最新のバージョンが利用可能 な場合は[アップグレード]が 表示され、選択するとアップグ レードを開始します。



#### コンピューターの状態

使用している端末の現在の状態の確認・変更ができます。詳細は5.1をご参照ください。

#### オフラインモード

ISL Always0n を無効にしてサービスを停止しま コンピューターの状態 す。タスクトレイ上の ISL Always0n のアイコン は非表示になります。



オフラインモードは、以下の方法で解除できます。

#### ■ Windows の場合

- 1. コンピューターの「すべてのプログラム」から ISL Always0n のプログラムを起動して、ISL Always0n の設定画面を開きます。
- 2. 「ISL AlwaysOn が無効です。有効にしますか?」と表示されたら、[はい]を選択します。
- 3. [保存]を選択して設定画面を閉じます。

#### ■ Mac の場合

- 1. Finder の[アプリケーション]-[ISLAlways0n]-[ISLAlway0nSettings.app] を起動して、ISL Always0n の設定画面を開きます。
- 2. 「ISL AlwaysOn が無効です。有効にしますか?」と表示されたら、[はい]を選択します。
- 3. [保存]を選択して設定画面を閉じます。

# 5 設定

ISL AlwaysOn をインストールしている端末で行うクライアント側の設定は、すべてのオペレーターに対して適用されます。オペレーターごとに異なる設定を適用する場合は、[基本設定]-[オペレーター]-[変更]から個別に設定を行います。

いくつかの設定はサーバー側で初期値が定義されています。クライアント端末側で個別の設定を定義する場合は、[デフォルトのサーバー設定を有効にする]のチェックを外して設定の変更を行います。

✓ デフォルトのサーバー設定を有効にする□ スリープモードの移行を有効にする

#### 5.1 基本設定



コンピューターの状態			
ISL AlwaysOn をインストールして	SL AlwaysOn をインストールしている端末の現在の状態の確認や変更を行います。		
ISL AlwaysOn	無効の場合、ISL AlwaysOn に関するすべての機能が利用で		
	きなくなります。		
デスクトップ共有	無効の場合、常駐接続によるオペレーターからのアクセス		
	を拒否します。アクションによるシステム情報の取得もで		
	きません。		
ファイル共有	無効の場合、ファイル共有で設定している共有フォルダー		
	へのアクセスを拒否します。		

セキュリティとプライバシー			
mac OS のセキュリティとプライバ	シーの設定を開きます		
アクセシビリティ	無効の場合、画面コントロールができなくなります。		
画面収録	無効の場合、画面共有ができなくなります。		
フルディスクアクセス	無効の場合、ファイル共有ができなくなります。		

# オペレーター

端末に接続可能なユーザーの確認、設定変更、削除を行うほか、インビテーションコードによるユーザーの追加も可能です。

インビテーションコードの確認方法は2つあります。

# ■オンラインページから確認する:

オペレーターとして登録したいユーザーでオンラインページにログイン後、[常駐接続をセットアップ]-[アクセス許可を依頼]を選択します。

#### ■ISL Light から確認する:

オペレーターとして登録したいユーザーで ISL Light にログイン後、ダッシュボードのスタート[+]から[常駐接続をセットアップ]を選択します。

いずれの場合も「このコンピューターの追加方法」で[インビテーションコード]を選択すると表示される 12 桁の番号がインビテーションコードになります。



変更	オペレーターごとに異なる設定を割り当てることができ
	ます。個別パスワードの設定もこちらから行います。
削除	登録済みのオペレーターを削除します。
認証方式	

オペレーターが端末へ接続する際に使用するパスワードの設定や変更を行います。		
メインパスワード	ISL AlwaysOn のインストール時に設定したパスワードで	
	す。端末へのアクセスだけでなく、オンラインページ上か	
	らアクションを実行する際にも使用します。	
個別パスワード	通常の基本設定画面には表示されません。	
	詳細は後述の説明をご参照ください。	
ワンタイムパスワード	1 度のみ使用可能なパスワードの入力を要求します。	
	詳細は後述の説明をご参照ください。	

Windows (macOS、Linux) のパス	オンプレミスライセンスのみご利用になれます。
ワード	アクセスパスワードの代わりに ISL AlwaysOn をインスト
	ールした端末のWindows/mac0S/Linux ユーザーを使用して
	常駐接続を開始します。

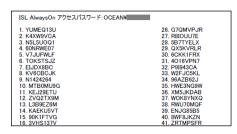
# Email 通知 クライアント端末に特定のイベントが行われた 際に、指定したメールアドレス宛に通知を送信 □ 常駐接続の開始時 □ 常駐接続の終了時 常駐接続の失敗時共有フォルダーへのアクセス時 します。オンプレミスライセンスで使用する場 合は、ISL Conference Proxy でメールサーバーの設定を行う必要があります。 常駐接続の開始時 端末への常駐接続が開始された際に通知を送信します。 常駐接続の終了時 端末への常駐接続が終了された際に通知を送信します。 端末への常駐接続を検知し、接続が正常に行われなかった 常駐接続の失敗時 際に通知を送信します(フィルタリング等)。 共有フォルダーへのアクセス時 ファイル共有に設定した共有フォルダーにアクセスされ た際に通知を送信します。 その他の設定 タスクトレイにアイコンを表示 タスクトレイに ISL Always0n のアイコンを表示します。 メインパスワードで設定内容を ISL AlwaysOn の設定画面を開く際にメインパスワードの 保護する 入力を要求します。 自動アップグレードを有効にす サーバーとの通信やオンラインページでの操作によって ISL Always0n のアップグレードが可能になります。

## ワンタイムパスワードについて

- 一度のみ使用可能な50個のパスワードを発行する場合に使用します。
- ※ すべてのワンタイムパスワードを使用すると設定が無効になります。 再度ワンタイムパスワードを利用するには、新しくパスワードを生成して設定を有効にする必要があります(接続に失敗すると別のワンタイムパスワードの入力を促されますが、接続に失敗したワンタイムパスワードは使用済にはなりません)。
- ※ ワンタイムパスワードは大文字小文字を区別します。正確にご入力ください。
- 1. [ワンタイムパスワード]にチェックを入れ、[パスワード発行]を選択します。
- 2. 8 桁のパスワードが発行されます。[PDF で保存] を選択してパスワードを保存します。

- 保存した PDF ファイルを開き、発行されたパスワードを確認します。
- 4. 常駐接続を許可するオペレーターに PDF ファイルを 連絡します。
- 5. 接続時、オペレーターは求められた番号のワンタ イムパスワードを入力します。

例: PDF ファイルの 38. に記載のパスワード



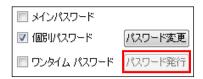


# 個別パスワードについて

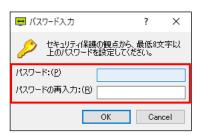
メインパスワードとは異なるパスワードでオペレーターに常駐接続を行わせる際に使用します。 個別パスワードはオペレーターごとに設定を行うため、ISL AlwaysOn の[設定]-[基本設定]には 表示されません。

個別パスワードは、オンラインページ上および ISL Light 上でも設定および変更が可能です。

- 1. [設定]-[オペレーター]で設定を行うユーザー上にマウスを重ねて表示される歯車マークより、[変更]を選択します。
- 2. [個別パスワード]にチェックを入れ、[パスワード変更]を選択します。



3. パスワードを入力し、[OK]を選択します



- 4. 個別パスワードのみ使用させる場合は、メインパスワードのチェックを外します。
- 5. [保存]を選択して、設定画面を閉じます。

# 5.2 デスクトップ共有



接続オプション		
クライアント端末に接続を開始する際のオプションを設定します。		
(コマンド実行時限	コマンドを実行して起動した ISL Light からの接続時、接続を開始	
定) アクセスパスワー	する前にクライアント端末上に確認メッセージを表示します。クラ	
ドなしで接続する	イアント側でアクセスを許可すると、オペレーター側はアクセスパ	
	スワードの入力をせずに接続を開始できます。	
この端末に接続できる	ISL Light から同時接続できるセッション数を制限する際に指定し	
コンピューターの最大	ます。指定した数を超えて接続しようとすると、接続元にメッセー	
数	ジが表示され、接続できません。	
接続確認をメールで通	オペレーターが端末へ接続すると入力されているメールアドレス	
知する	宛にメールが届き、接続を許可・拒否するか選択できます。メール	
	アドレスは複数設定できます。確認メールの有効期間は上限500秒、	
	下限 10 秒です。(初期値:180 秒)	
接続前に確認を行う	オペレーターが端末への接続を開始   ISL Always On リモート接続 ×	
	する際に確認メッセージを表示しま test がごのコンピューターに接続を開始しました。	
	す。[確認時間]に設定した時間(上限	
	500 秒) の経過後、または[OK]の選択	
	後に接続を開始します。	

<b>-</b>	
接続拒否を有効にする	「接続前に確認を行う」で ISLAIwaysOn リモート接続 ×
	設定した確認時間内に、接  iii test がのコンピューターに接続を開始しました。
	続の許可/拒否を手動で選  様態を許可する場合は許可を指面する場合は非面質をかりっかしてください。 何もしなければ50秒後、自動的に接続が揺音されます。
	択できるようになります。
	許可を選択した場合はただちに接続を開始し、拒否を選択した場合
	は接続を拒否した旨をオペレーターに表示します。確認時間内に何
	もしない場合の動作は[初期設定]にて変更できます(初期値:許
	可)。
ローカルユーザーがロ	「接続前に確認を行う」が有効でも、接続先の端末にユーザーがロ
グインしていない場	グインしていない場合、確認メッセージの表示をスキップし、接続
合、確認メッセージの	します。
表示をスキップする	
WIN	
セッション開始時にコ	接続の開始時にコンピューターをロックすることで、OS のユーザー
ンピューターをロック	情報を知らないユーザーからの不正な操作を防止します。
する*1	
ネットワークが切断さ	常駐接続中ネットワーク障害等によってサーバーとの通信が切断
れた際にコンピュータ	された際に自動でコンピューターをロックします。ネットワーク回
一をロックする	復後は端末に再接続されます。
セッション終了時にコ	常駐接続の終了時に自動でコンピューターをロックします。セッシ
ンピューターをロック	ョン終了前に端末のロックを忘れてしまった場合にも、他のユーザ
する	一から操作されるのを防ぐことができます。
セッション開始時にブ	接続の開始時にデスクトップ画面を黒く表示して、周りから操作内
ラックスクリーンを有	容が見えないようにします。ISL Always0n をインストールしている
効にする WIN	端末の OS が Windows 8 以降、Windows Server 2012 以降の場合は、
	[詳細設定]-[Client を利用する] (次に説明) も併せて有効にして
	ください。
[ESC]キー押下時にブ	接続される端末側で[ESC]キーを押下した際にブラックスクリーン
ラックスクリーンを解	を解除するまでの時間を変更できます(※ブラックスクリーンが停
除するまで(秒) WIN	止されるまでの秒数はオペレーター側に表示されます)。
	初期値:10 設定可能範囲:10~180
詳細設定	
Client を利用する	オペレーター側の接続オプション[Client を利用する]に関係なく、
	強制的に ISL Light Client を使用して常駐接続を行います(初期
	值:無効)。

#### レコーディング

自動レコーディングを 有効にする<sup>※1</sup>

端末に対する常駐接続の操作を記録し、指定の保存先へレコーディングファイルを自動的に保存します。

録画したファイルは「.isr」拡張子のついたファイル名で保存され、 専用プログラム「ISL Player」で再生できます。

▼ISL Player (『ISL Light マニュアル』参照)

https://www.islonline.net/download/ISLPlayer

\*\*1 オンプレミスライセンスではサーバー内の任意の場所にレコーディングファイルの自動保存ができます。詳細は『ISL Conference Proxy 管理者ページ操作マニュアル』をご参照ください。

# 5.3 ファイル共有

オペレーターがアクセス可能な共有フォルダーを設定することで、常駐接続を行うことなくファイルの交換ができるようになります。

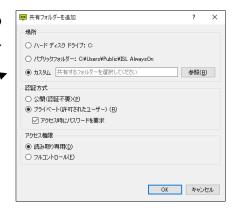
※共有フォルダーへのアクセスは、端末がオンライン状態の場合のみ可能です。



# 共有フォルダーを追加

共有フォルダーを追加するには [ファイル共有] 欄の右上に表示される [+] を選択し、共有するフォルダーのパスおよび権限を設定します。





場所			
共有するフォルダーの場所(パス)を指定します。			
ハードディスクドライ	全てのドライブを共有します。		
ブ			
パブリックフォルダー	インストール時の初期設定として指定されている ISL AlwaysOn		
	フォルダーを共有します。ISL AlwaysOn フォルダーは、OS ごとに		
	格納されている場所が異なります。		
	■Windows 7、8、8.1、10、11 の場合		
	C:¥Users¥Public¥ISL AlwaysOn		

■macOS の場合				
/User/Shared/ISLAlwaysOn/				
※4.4.2116.69 以降、新規インストールした端末にはパブリック:				
オルダーの設定は自動で追加されなくなりました。				
■Linux の場合				
パブリックフォルダーは自動で作成されません。				
[参照]から任意のフォルダーを選択して共有します。				
スする際の認証方式を設定します。				
共有フォルダーへのアクセスに制限はありません。				
ご利用のブラウザ上で ISL Online アカウントにログインしていな				
い場合、フォルダーへのアクセス時にログインを要求されます。				
[アクセス時にパスワードを要求]にチェックを入れると、さらにア				
クセスパスワードの入力が必要になります。				
共有フォルダーの操作権限を設定します。				
ZIP ダウンロードのみ可能になります。				
ZIP ダウンロードのほか、ファイル(フォルダー)の削除、アップ				
ロード、新規フォルダーの作成ができます。				

# 共有フォルダーへのアクセス

- 1. オンラインページから[常駐接続]を選択します。
- 2. [アクション]-[共有ファイル] を選択して、ファイルの一覧を表示します。



3. [共有先のパス]から参照する共有フォルダーを選択します。選択したフォルダーの認証方式に[アクセス時にパスワードを要求]が設定されている場合は、アクセスパスワードの入力を求められます。

4. 共有フォルダー内のファイル一覧が表示されます。



- 5. ファイルが以下の条件を満たしている場合は、右の虫眼鏡マークにマウスカーソルを合わせることでファイルの内容を参照できます。
  - ① 320KB未満のテキストファイル(txt, out, html, htm, cs, css, vb, ini, reg)
  - ② 32KB 未満のイメージファイル (png, jpg, jpeg, gif)
- ※ テキストファイルは、半角文字のみ参照できます。全角文字は文字化けして表示されます。
- ※ オンプレミスライセンスではテキストファイルの内容は正常に表示されません。

# オンラインページ上のアクション

共有フォルダー内のファイルおよびサブフォルダーに対して以下のアクションが実行できます。 サブフォルダーに対してアクションを実行する場合は、右側の[アクション]から各操作を選択 します。



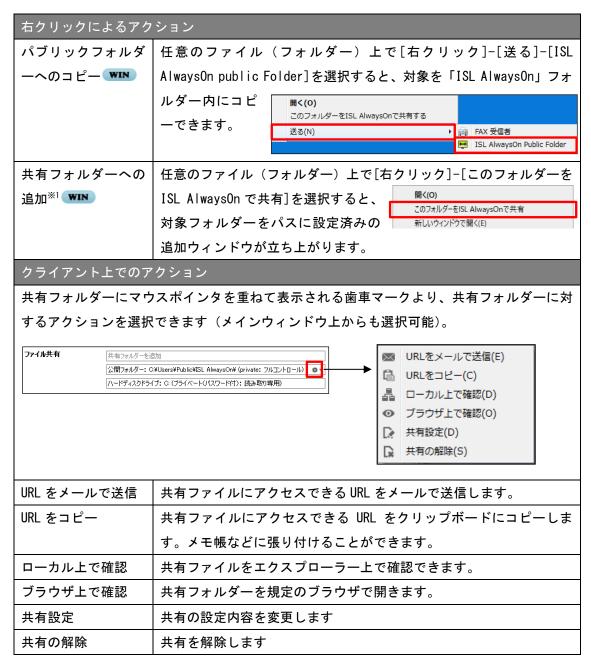
オンラインページ上のアクション**1			
ファイルを削除※2	確認メッセージの表示後にチェックボックスで選択したファイル		
	を削除します。		
ZIP ダウンロード	選択したファイルをまとめて ZIP 形式でダウンロードできます。		
アップロード	[アップロード]を選択し、表示されるウィンドウでファイルを選択		
	して[実行]を選択すると、ファイルを共有フォルダー内にアップロ		
	ードできます。		

	サブフォルダー内には、サブフォルダー右側の[アクション]から			
	アップロードできます。			
新規フォルダーの作成	共有フォルダー内に新規フォルダーを作成します。			
ZIPに Unicode を使用	Unicode を保持したまま、ZIP 形式に圧縮します。 (Windows 標準の			
	解凍ツールを使用する場合など、一部の環境でフォルダー名やファ			
	イル名の文字化けが発生することがあります)			

<sup>\*&#</sup>x27;[アクセス権限]が読み取り専用の場合は、[ZIP ダウンロード]のみ実行できます。

<sup>※2</sup> サブフォルダーに対するアクション [フォルダーの削除]は、フォルダー内にファイルが ない場合のみ実行できます。

#### その他のアクション



<sup>\*\*&</sup>lt;sup>1</sup> オンプレミスライセンスではメニューを非表示に設定することができます。詳細は『ISL Conference Proxy 管理者ページ操作マニュアル』をご参照ください。

### 5.4 詳細設定



# トンネル接続

トンネル接続を許可する (RDP 接続, SSH 接続) ISL Light 上からこの端末を指定して代替接続のアクションが 使用できるようになります (初期値:無効)。

#### RDP のセッションへの接続

利用中の RDP のセッション への接続を許可する WIN この端末に対する常駐接続の際に接続オプション[利用中の RDP のセッションへ接続する] (3.2 参照) が使えるようになります (初期値:有効)。

## Wake On LAN

Wake On LAN パラメーター の自動検出 Magic Packet の送信先となるブロードキャストアドレスを自動で判別します。アドレス変換を設定したルーターなど、サーバーから特定の宛先に対して送信する場合はチェックを外し、送信先の IP アドレスとポートを入力します。

# スリープモード

スリープモードへの移行を 許可する\*\*1 win ISL Always0n によるスリープモードへの移行の阻止を停止します。

### 接続

接続で使用するプロキシサーバーやポート番号(80、443、7615)を設定します。

※現在、[ポート80を使用]は正常に動作しません。

詳細設定※2	プロキシサーバー経由でインターネットに接続する場合などに				
	使用します。設定後は[接続テスト]を選択して接続に問題がな				
	いことを確認した上で、サービスの再起動([コントロールパネ				
	ル]-[管理ツール]-[サービス]-[ISL AlwaysOn]) を行ってくだ				
	さい(プロキシ設定の記 <sup>受接続テスト</sup> ×				
	載例は 6.1.3 をご参照				
	ください)。				
接続テストプログラムを起	ISL Tester を起動して、接続・転送のテストを行います。テス				
動	ト結果はログファイルとして出力できます(主にトラブルシュ				
	ーティング目的で使用します)。				
	詳細は後述の説明をご参照ください。				
フィルタ					
アクセスフィルタを有効に	IP アドレスまたは MAC アドレスを指定して、オペレーターから				
する	のアクセスを制限できます。				
	詳細は後述の説明をご参照ください。				
オンデマンド	クライアント端末と ISL Conference Proxy のサーバー間での				
	定期通信を行わないため、同時セッション接続数やサーバー負				
	荷を軽減できます。				
	詳細は後述の説明をご参照ください。				
プレビュー					
プレビュー	プレビュー機能はサポート対象外です。				
	主にトラブルシューティングの際に使用します。				
履歴					
詳細は後述の説明をご参照く	ださい。				

\*\*1 オンプレミスライセンスの場合、ISL Conference Proxy の管理画面でスリープモードへの移行を許可/禁止できます。詳細は『ISL Conference Proxy 管理者ページ操作マニュアル』をご参照ください。

※2プロキシを使用した環境の場合は、接続方式が[自動検出] (初期値)となっていることを確認した上で、プロキシの設定を入力してください。

また、Mac の場合にご利用になれる接続方式は以下になります。

direct / wsstun-proxy / wsstun-direct / wstun-proxy / httpt-proxy / wstun-direct /
https-direct / https-proxy / https-direct

※ 現在、Mac版ではHTTP PACの設定はサポート対象外です。

## 接続テストプログラムについて

ISL Online 製品では接続の際、ポート  $7615 \rightarrow 443 \rightarrow 80$  の順にアクセスするため、ポート 7615 を使用できない状態では、接続に時間がかかります。

接続テストプログラムである ISL Tester を実行することで、クライアント端末と ISL Online サーバーとのデータ転送速度を計測し、最適な通信方式を選択することができます。



※ ISL Tester に表示されるデータ転送速度が 1MB/s 以上、応答時間が 500ms 以内であれば、 ISL Online による通信を快適な状態でご利用になれます。

ISL Tester を使用して適用した設定は、当該端末の以下のレジストリキーをエクスポートすることで配布が可能です。

#### ■64bit0S の場合

HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\WOW6432Node\ISL Online\AutoTransport

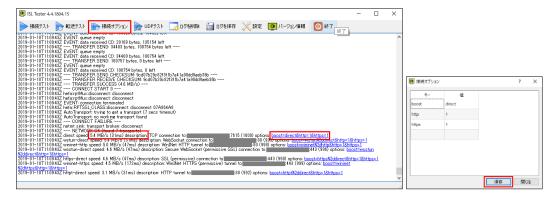
#### ■32bit0S の場合

HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\ISL Online\AutoTransport

接続テスト	接続テストを開始します。
転送テスト	転送テストを開始します。
接続オプション	すべての接続方式でテストを実行し、結果を出力します。
UDP テスト	UDP プロトコルを利用した転送テストを実行します。
ログを削除	コンソールに出力された実行ログを削除します。
ログを保存	コンソールの実行ログをファイル(. txt)に保存します。
設定	設定画面を開きます。
バージョン情報	ご利用の ISL Tester のバージョンを確認します。
終了	ISL Tester を終了します。

## ■ISL Tester の実行手順

- 1. [接続]-[接続テストプログラムを起動]を選択し、ISL Tester を起動します。
- 2. [接続オプション]を選択します(終了まで数分かかる場合があります)。
- 3. 画面下部にて"speed"の値が一番大きい結果のリンク「boost=...」(「boost=...」がない場合は、「force=...」) を選択します。



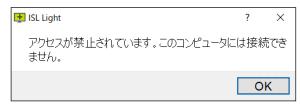
- 4. [保存]を選択します。
- 5. ISL Always0n のサービスを再起動([コントロールパネル]-[管理ツール]-[サービス]から [ISL Always0n])します。

#### ■接続・転送ログファイルの取得手順

- 1. [接続テスト]を選択して接続テストを開始し、処理が停止するまでしばらく待ちます。
- 2. 処理が停止したら[ログを保存する]を選択し、ログファイルを任意の場所に保存します。
- 3. [ログを削除する]を選択して実行ログをクリア後、[転送テスト]を選択して転送テストを 開始します。処理が停止したら、ログファイルを任意の場所に保存します。
- 4. [ログを削除する]を選択して実行ログをクリア後、[接続オプション]を選択して接続テストを開始します。処理が停止したら、ログファイルを任意の場所に保存します。
- ※ [設定]を変更することで、接続・転送の条件を指定してログを取得できます。

#### フィルタについて

IPアドレスまたは MACアドレスを指定して、クライアント端末へのアクセスを制限できます。



- 1. [アクセスフィルタを有効にする]のチェックボックスを入れます。
- 2. アクセスを許可する場合は"allow"、禁止する場合は"deny"と記述します。

```
書式: [allow_|deny_][ip|mac|all](; [allow_|deny_][ip|mac|all]...)
例: MAC アドレス [00-12-34-56-78-90] による接続を禁止する場合
deny_mac 00-12-34-56-78-90; allow_all
または
deny_mac 00-12-34-56-78-90
allow_all
```

- ※ "deny"と"all"を組み合わせて利用してください。
- ※ 複数の設定を行う場合は、[;](セミコロン)または改行で追記します。
- 3. [保存]を選択します。

#### ■フィルタリングの記述について

フィルタリングの設定は上から下の順に読み取りが行われ、該当するものが1つでもあると以降の設定は読まない形となります。そのため「XXX\_all」を入力すると、それ以降に記載された内容は無視されてしまうので、最後に記載する必要があります。

#### 例:

```
allow_ip XXX. CCC. BBB. 111
allow_ip XXX. CCC. BBB. 122
allow_ip XXX. CCC. BBB. 103
deny_all
```

- ※ IP アドレスは範囲指定での記載が可能です。(XXX. CCC. BBB. 111 XXX. CCC. BBB. 122)
- ※ Android 6.0 および iOS 7.0 以降の端末の MAC アドレスを制限することはできません。

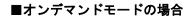
### オンデマンドモードについて

オンプレミスライセンスの場合は、クライアント端末と ISL Conference Proxy のサーバー間での定期通信を行わないオンデマンドモードをご利用いただくことで同時セッション接続数やサーバー負荷を軽減できます。

ご利用にはあらかじめ ISL Conference Proxy の管理画面で設定を行う必要があります。詳細は『ISL Conference Proxy 管理者ページ操作マニュアル』をご参照ください。

オンデマンドモードで ISL AlwaysOn をご利用の場合は、タスクトレイのアイコンの右上が青く表示されます。

### ■通常モードの場合







なお、オンデマンドモードで起動中のクライアント端末に対して一部のアクション (3.6 参照) がご利用いただけないほか、以下の制限がございます。

- ※ WOL 送信では同一ネットワーク内に電源の入っている端末として認識されません。
- ※ クライアント端末の IP アドレスがオンデマンドモード移行時の IP アドレス (オンラインページに表示されている IP アドレス) から変更された場合、接続を開始できません。
- ※ オンデマンドモードの利用時は、クライアント端末のファイアウォールの設定で ISL AlwaysOn の実行ファイル (ISLAlwaysOn. exe) が行う通信が許可されている必要があります。Windows ファイアウォールをご利用の場合は、ISL AlwaysOn のインストール時に必要な設定が自動で適用されます。
- ※ インターネット経由で ISL Conference Proxy に接続する環境ではご利用できません。
- ※ オンデマンドモードで起動中のクライアント端末は、オンラインページおよび ISL Light の UI (常駐接続)上で、オンライン/オフラインの状態に関係なく常に「緑色 (オンライン)」の状態で表示されます。

その他オンデマンドモードに関する詳細は、以下をご参照ください。

▼オンデマンドモードについて教えてください。

https://islsupport.oceanbridge.jp/portal/ja/kb/articles/aon-on-demand

#### 履歴について

端末に対するアクセス(常駐接続)履歴の検索やエクスポートができます。

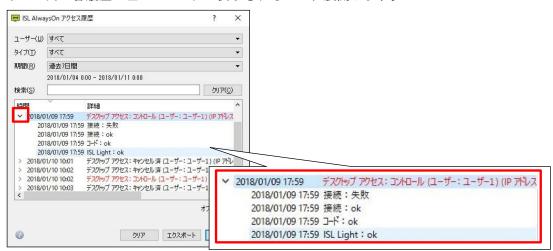
- [履歴]-[開く]を選択します。
   ※[メインウィンドウ]-[履歴の検索]からも同じウィンドウを開くことができます。
- 2. 「ユーザー」「タイプ」「期間」「検索(任意)」条件を入力して、検索を行います。



3. 詳細を表示する場合は、[オプション]-[全てのイベントを表示]を選択します。



4. リスト内の各履歴の左に▶マークが表示されるので、展開します。



- 5. 履歴を保存する場合はウィンドウ下にある[エクスポート]を選択し、保存先とファイル名 を指定して[保存]を選択します。
- 6. 履歴が XML ファイルとして保存されます。
  - ※ [クリア] を選択するとメッセージの確認後、すべての履歴を削除できます。削除 後は元に戻せないのでご注意ください。
  - ※ エクスポートファイルの時間には協定世界時(UTC)が適用されます。

# 6 ISL AlwaysOn を大量に展開する

接続先となるクライアント端末の台数が多い場合は、以下のいずれかの方法で ISL Always0n の大量導入(インストール)が行えます。それぞれのインストール方法には以下の特徴があるため、ご都合の良い方法を選択してインストールを行ってください。

※ ISL Always0n を 1 台ごとにインストールする一般的な方法は、2 をご参照ください。

#### ■サイレントインストール

サイレントインストール用のインストーラーを作成し、展開を行います。

インストーラー作成用のスクリプトサンプルはサポートページ上より作成できるため簡単に展開が行えるほか、資産管理ツールや Active Directory を利用して ISL Always On のインストールを実施する場合に推奨する方法です。

※ 設定値を変更して ISL AlwaysOn をご利用になる場合はレジストリ変更スクリプト (mac OS、Linux OS 未対応) を作成して同時に展開を行います。

#### ■クローニング WIN

基本となる端末(マスターPC)に ISL AlwaysOn をインストールしてあらかじめ各種設定を行い、マスターPC を複製することで他の端末に展開を行います。 ISL AlwaysOn を大量展開する際に、それぞれの端末の構成や使用するネットワーク環境などが同じ場合は、1 台ごとにインストールを行うよりも、この方法で設定ミスや設定忘れ等を防ぎつつ迅速に展開することができます。

# 6.1 サイレントインストール

- (1) サイレントインストールでは、以下の ISL AlwaysOn の設定を流し込むことができます。
- ・ユーザー情報(オペレーターのユーザー名)
- ・端末のアクセスパスワード
- ・コンピューター名(オンラインページ上の表示名)
- ※ 接続方式、共有などの情報は設定できません。
  - (2) サイレントインストーラーは、オンライン状態(サーバーと通信が取れる状態)で行う必要があります。オフライン状態でインストールを実行し、オンラインにならないまま端末が再起動されると、インストールが正常に終了しません。
  - (3) サイレントインストールのスクリプトサンプルは、サポートページ上で作成できます。
    - ▼常駐接続 (ISL Always0n) のカスタマイズ (スクリプトサンプル作成ページ) https://www.islonline.jp/help/faq\_customize\_aon.html
- ※ 上記のサポートページでは、6.1.1 で紹介している追加オプションは設定できません。追加オプションを利用する場合は上記ページで基本のスクリプト(URL)を作成し、その後必要なオプションを追記してください。
- ※ ISL Always0n 2.2.10 (Windows XP、Vista 対応) 配布インストーラーは、Windows XP または Vista 端末上で作成する必要があります。

### 6.1.1 インストーラーの作成方法

#### ■手動で作成する場合

- 1. オンラインページにログインします(3参照)。
- 2. [常駐接続] を選択します。
- [常駐接続をセットアップ]-[このコンピューターを追加] を右クリックして「リンクのアドレスをコピー」を選択します。
  - ※ブラウザによって名称が変わります (Mac の場合は [このコンピューターを追加] のアイコン上で「Ctrl+クリック」で「リンクをコピー」を選択)。
- 4. コピーした URL をテキストエディターなどに貼り付け、以下の通り URL を編集します。
- (ア)  $\lceil start_1 \rightarrow \lceil download_1 \pmod{W} \rceil$
- (イ) 「cmdline=」→「cmdline=%2FVERYSILENT+password+%22<任意のパスワード>%22+」 ※任意のパスワード=半角英数 8 文字以上の文字列
- (ウ) 「grant」 → 「grant\_silent」

# ■パスワードを「abcdefgh」に設定した例(パブリッククラウドライセンス)

【変更前】

https://islv61-

 $alwayson.islonline.net/start/ISLAlwaysOn?cmdline=grant+\%22zeJwdj7tKxEAUQLksWG1lZbm2gmEeufPobAXR\\wjbNnZk7IbtxIkmWxU6wFPwKG\%2b3FL3LBv3DX\%2fsA5JwPsv773H68\%2f75\%2b\%2fL29LaGNewPX9zequ9F3\\h1S3Pu2HcnELbpQXUtYgxSrQetXSRFSmK0smAmWvPFhkFBmlysEIZTphF0oZFIso%2boONEHCI5VlIJEy1RqpPTX\\hrjFFrEaCRKzUEor2XK3ng6cHXSNmvl9DNMANTv6GkayuVF1U398N9ZFZ7PYAvQNNNM49RMVaENrbsHuhoiUwljl1qu1o%2fnsD2eHIT%2bIFRGa7GEE%2fqD5QBQkA%3d%3d%22$ 

【変更後】

https://islv61-

alwayson.islonline.net/download/ISLAlwaysOn?cmdline=%2FVERYSILENT+password+%22abcdefgh%22+grant\_silent+%22zeJwdj7tKxEAUQLksWG1lZbm2gmEeufPobAXRwjbNnZk7IbtxIkmWxU6wFPwKG%2b3FL3LBv3DX%2fsA5JwPsv773H68%2f75%2b%2fL29LaGNewPX9zequ9F3h1S3Pu2HcnELbpQXUtYgxSrQetXSRFSmK0smAmWvPFhkFBmlysEIZTphF0oZFIso%2boONEHCI5VIIJEy1RqpPTXhrjFFrEaCRKzUEor2XK3ng6cHXSNmvl9DNMANTv6GkayuVF1U398N9ZFZ7PYAvQNNNM49RMVaENrbsHuhoiUwljl1qu1o%2fnsD2eHIT%2bIFRGa7GEE%2fgD5QBQkA%3d%3d%22

- 5. 次ページに記載の追加オプションを利用する場合は、引き続き URL を編集します。
- 6. 編集した URL をブラウザのアドレスバーに貼り付け、インストーラーを取得します。
- 7. ISL AlwaysOn をインストールする端末へ取得したインストーラーを配布して実行します。

# ■オンラインページから作成する場合

- 1. オンラインページにログインします(3参照)。
- 2. [常駐接続] を選択します。
- 3. [常駐接続をセットアップ]-[常駐接続のインストーラー作成]を選択します。

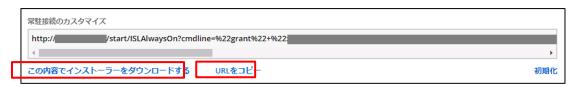


4. 共有先のグループやタグなどを入力、選択します。



詳細	常駐接続の端末一覧に表示される名前です。		
	未入力の場合は、端末のコンピューター名で追加されます。		
コンピューターグループ	インストールの際に特定のグループへの共有も合わせて行い		
	たい場合、共有先のグループを選択します。選択できるグル		
	ープは1つだけです。		
タグ	タグ(端末検索の際に使用)を設定します。		
アクセスパスワード	サイレントインストーラーを作成する場合は入力必須です。		
サイレント インストー	サイレントインストーラーを作成したい場合は選択します。		
ル			
常駐接続用エージェント	有効にすると指定したオプションで常駐接続用のエージェン		
をアップグレード	トがアップグレードできます。		

5. [この内容でインストーラーをダウンロードする]を選択し、インストーラーをダウンロードします。[URL をコピー]を選択し、ブラウザのアドレスバーに貼り付けてインストーラーをダウンロードすることもできます。



6. ISL AlwaysOn をインストールする端末へ取得したインストーラーを配布して実行します。

※オンラインページからインストーラーを作成する場合、ISL AlwaysOn をインストールする 端末と同じ OS 上で操作を行う必要があります。異なる OS 向けのインストーラーは作成できま せん。

#### 追加オプション

#### ■System アカウントでのインストール

System アカウントでインストールを実行(許可)します。資産管理ツールによる System アカウントでの配布や Active Directory のスタートアップスクリプトを使用して配布する場合は、

「grant\_silent」の前に「ignore\_system\_account+」を追記します。

【変更後】

https://islv61-

 $alwayson.islonline.net/download/ISLAlwaysOn?cmdline=\%2FVERYSILENT+password+\%22abcdefgh\%22+ignore_system_account+grant_silent+\%22zeJwdj7tKxEAUQLksWG1lZbm2gmEeufPobAXRwjbNnZk7Ibt xIkmWxU6wFPwKG\%2b3FL3LBv3DX\%2fsA5JwPsv773H68\%2f75\%2b\%2fL29LaGNewPX9zequ9F3h1S3Pu2HcnELbpQXUtYgxSrQetXSRFSmK0smAmWvPFhkFBmlysEIZTphF0oZFIso%2boONEHCI5VlIJEy1RqpPTXhrjFFrEaCRKzUEor2XK3ng6cHXSNmvl9DNMANTv6GkayuVF1U398N9ZFZ7PYAvQNNNM49RMVaENrbsHuhoiUwli1qu1o%2fnsD2eHIT%2bIFRGa7GEE%2fqD5OBOkA%3d%3d%22$ 

#### ■任意のコンピューター名(通称)またはタグを設定

常駐接続の端末一覧に表示されるコンピューター名(通称)に任意の名称またはタグを設定する場合は、「%2FVERYSILENT+password+%22〈任意のパスワード〉%22」の後に以下を追記します。

#### ●コンピューター名 (通称)

「+description+%22%24%5Bname%5D+XXXX%22」(任意の名称)

例:インストールする端末のコンピューター名が「ADMIN-PC」の場合、コンピューター名(通称) は「ADMIN-PC XXXX」となります。

**●**タグ(パブリッククラウドライセンスのみ)

「+tags+%22tag1%22」または「+tags+%22tag1%2Ctag2%2Ctag3%22」(タグを複数設定する場合)

- ※ コンピューター名(通称)とタグを同時に設定することもできます。
- ※ コンピューター名(通称) およびタグを日本語で設定する場合は、URL エンコーディングで変換した文字列を記述します。
- ※ 設定内容は、常駐画面の[アクション]-[編集]で後から変更できます。

#### ■保護された設定への上書きインストール

既に ISL Always 0n がインストールされている端末に上書きインストールにてユーザーの追加を行う際、ISL Always 0n 側の設定で[メインパスワードで設定内容を保護する] を有効にしている場合は、手順「3-C」オプションの「password」を「manage\_password」に変更し、任意のパスワードには設定済みのメインパスワードを記載します。

- ※ 上書きインストールによってメインパスワードを変更することはできません。
- ※ 以下の場合、サイレントインストール実行時にメインパスワードの入力を求められます。
  - ▶ 本オプションを使用しない場合
  - » スクリプトに記載したパスワードが上書きインストールする端末に設定済みのメイン パスワードと一致しない場合

## 6.1.2 レジストリ変更スクリプトの作成方法 WIN

ISL AlwaysOn の設定情報はそれぞれ特定のレジストリのデータが保有しているため、データの変更を行うスクリプトファイル (.reg) の展開および実行によって設定の一括変更が可能です。初期設定のまま ISL AlwaysOn をご利用になる場合はこの手順を行う必要はありません。

※ プロキシの設定に関しては、6.1.3 をご参照ください。

## スクリプトファイルで変更可能な設定項目

ISL AlwaysOn の他の設定に関しては、レジストリによる変更が可能/不可能なものがあります。 下記以外の設定に関しては、別途サポート窓口までご相談ください。

項目名	初期値	レジストリキー	データ	変更後の値
タスクトレイアイコンを	ON	show_tray	false	0FF
表示する**1				
メインパスワードで設定	0FF	global_protect	true	ON
内容を保護する※1				
接続前に確認を行う※1	0FF	notify_show	true	ON
		notify_timeout	30 <sup>**3</sup>	
接続拒否を有効にする**2	0FF	notify_allow_reject	true	ON
		notify_reject_default	true	
オンデマンドモードを有	ON	use_on_demand	false	0FF
効にする**4				

<sup>※</sup> 初期値ではレジストリエディターにレジストリキーは存在しません。

- ※3 初期値は「10秒」に設定されており、最大「120秒」まで設定が変更できます。
- ※4 別途、ISL Conference Proxy側の設定で本機能の使用が許可されている必要があります。

本マニュアルに記載するスクリプトファイルのサンプルは、以下からダウンロードできます。

#### ▼32bit OS の場合

https://www.oceanbridge.jp/isl/aon/download/aon\_sample\_editregistry44\_32bit.zip

▼64bit OS の場合

https://www.oceanbridge.jp/isl/aon/download/aon\_sample\_editregistry44\_64bit.zip

<sup>※2 「</sup>接続前に確認を行う」を有効にする必要があります。また初期値では、確認時間の経過後に接続が許可されます。

# 作成手順

- 1. テキストエディターを開きます。
- 2. 下に記載のレジストリスクリプト記述例の内容をコピー&ペーストします。
- 3. 設定変更を行う端末が 32bit OS の場合は、レジストリキー格納場所を修正します。
- 4. 拡張子(.reg)を確認し、任意の名前を付けて、ファイルを任意の場所に保存します。
- 5. 作成されたファイルを他の端末に配布して実行します。

# レジストリスクリプト記述例 (64bit OSの場合)

Windows Registry Editor Version 5.00 [HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\ISL Online\ISL AlwaysOn] "show\_tray"="false" タスクトレイアイコンを表示する: OFF "global\_protect"="true" メインパスワードで設定内容を保護する: "notify\_show"="true" 接続前に確認を行う: ON "notify\_timeout"="30" 確認時間(秒):30 "notify\_allow\_reject"="true" -----接続拒否を有効にする: ON "notify\_reject\_default"="true"----接続拒否の初期値の設定:拒否 "use\_on\_demand "="false"------オンデマンドモードを有効にする: OFF

# レジストリキ一格納場所

### ■32bit OS の場合

HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\ISL Online\ISL AlwaysOn

# ■64bit OS の場合

HKEY LOCAL MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\ISL Online\ISL AlwaysOn

# 6.1.3 プロキシ設定の展開方法

プロキシの設定値(HTTP proxy、HTTP User、HTTP password)はレジストリに暗号化した状態で保存されます。プロキシの設定をスクリプトファイルで配布する場合は、あらかじめ任意のクライアント端末にインストールされた ISL AlwaysOn で設定を行い、暗号化された設定値をエクスポートして配布します。

ISL Always0n のインストール方法は2または6.1.1 をご参照ください。

1. クライアント端末にインストールされた ISL AlwaysOn の[設定]-[詳細設定]-[接続]-[詳細設定] を選択し、プロキシサーバーの設定を行います。

☑ 詳細設定

(自動検出) HTTP proxy

HTTP <u>U</u>ser HTTP <u>p</u>assword

HTTP pac

接続テスト

コネクションテスターを起動

例1:プロキシサーバーが「192.168.0.100」

ポート「8080」の場合

HTTP proxy: 192.168.0.100:8080

例 2: PAC ファイルの保存場所が

「http://192.168.0.1/proxy.pac」場合

HTTP PAC: http://192.168.0.1/proxy.pac

※ファイルパス (file://C:\Users...,file://fileserver/share...等) も指定可能です。

- 2. [保存]を選択し、設定画面を閉じます。
- 3. Windows の検索ボックスに「regedit」と入力し、レジストリエディターを開きます。
- 4. 以下のパスで右クリックし、[エクスポート]を選択して設定値をエクスポートします。

#### ■32bit OS の場合

HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\ISL Online\AutoTransport\Connect options

### ■64bit OSの場合

HKEY LOCAL MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\ISL Online\AutoTransport\Connect options



- 5. 任意の名前を付けて、ファイルを任意の場所に保存します。
- 6. 作成されたファイルを他の端末に配布して実行します。
- 7. サービスの再起動または端末の再起動を行ってレジストリの設定を適用します。

# Active Directory のグループポリシーを使用した配布に関して

サイレントインストールのインストーラーおよびレジストリ変更スクリプトは、Active Directory のグループポリシーを使用した配布が可能です。

ただし、グループポリシーのログオンスクリプトを使って配布する場合、ISL AlwaysOn はインストール時に管理者権限を持ったアカウントで実行する必要があるため、配布時には管理者権限を持たせる必要があります。

なお参考までに、Microsoft が提供している「PsExec」を使用した方法に関しては、弊社サポートページにてご案内しております。

https://islsupport.oceanbridge.jp/portal/ja/kb/isl-online

# 6.2 クローニング WIN

- (1) クローニングでは ISL Always On をインストールしてあらかじめ各種設定を行ったマスターPC を作成し、その端末を複製して ISL Always On を展開するため、すべての設定を引き継ぐことができます。
- (2) マスターPCは、オンライン状態(サーバーと通信が取れる状態)で作成する必要があります。2を参考にマスターPCとなる端末に ISL AlwaysOn をインストールし、クローニングを実施する前に必ず接続確認を行ってください。
- (3) ISL AlwaysOn がインストールされている端末は固有の ID (uid) によって識別されます。クローニングでは uid の再取得を行う設定を行ったマスターPC を複製することで、同一の設定値を持つ個々の端末を生成できます。

#### 6.2.1 マスターPC の複製前に固有の ID を設定する方法

- 1. [コントロールパネル]-[管理ツール]-[サービス]を開き、「ISL AlwaysOn Service」のサービスを停止します。
- 2. レジストリエディターを起動し、以下のキーに移動します。

#### ■32bit OS の場合

HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\ISL Online\ISL AlwaysOn

#### ■64bit OS の場合

HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\ISL Online\ISL AlwaysOn

3. バイナリ値 [uid] を削除します。



4. [新規]-[バイナリ値]を選択後、[名前]に「\_ghost\_」、[データ]に「01」を入力します。



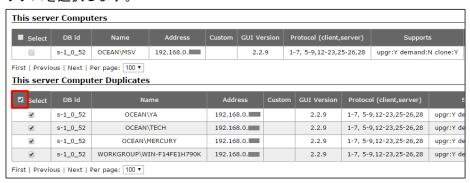
- 5. マスターPC の設定が完了しました。**ISL AlwaysOn のサービスを停止したまま**、すべての クローニング作業を完了させてください。
- 6. クローニング作業を完了後、クライアント端末を再起動または **ISL AlwaysOn のサービス を開始します。**

再起動後、「\_ghost\_」と「01」の値が新規の固有 ID に更新されます。

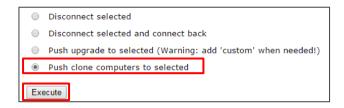
# 6.2.2 マスターPC の複製後に固有の ID を設定する方法

オンプレミスライセンスでは、ISL Conference Proxyの管理画面から重複する uid を持つオンライン端末に固有の uid を設定することができます。一意の uid の割り当てに失敗した場合も、この方法で uid の再設定が行えます。

- ※ パブリッククラウドライセンスをご利用の場合は、6.2.1 をご参照ください。
- 1. マスターPC を複製します。
- 2. 複製した端末とサーバー(ISL Conference Proxy)の通信が取れると、ISL Conference Proxy の管理画面 [Activity monitor] [Sessions] [Active] 内の[This server Computer Duplicates] に重複する uid を持つ端末がリストアップされます (重複する uid を持つ端末がない場合は何も表示されません)。
  - ※最後にオンラインになった端末は上段の[This server Computers]に表示され、オンラインページ上にも表示されます。
- 3. [This server Computer Duplicates]にリストアップされているすべての端末のチェックボックスを選択します。



4. ページ下部の [Push clone computers to selected] を選択後、[Execute] を選択します。 各端末上で uid の再設定が行われます。



5. uid の再設定に成功すると各端末は[This server Computers]にリストアップされ、接続可能な状態になります。

# 6.3 一斉グルーピング

ISL Always0nでは、あるユーザーで既に接続できる端末を別のユーザーでも接続できるよう簡単に紐付けることができます。端末の共有は1台ずつ設定できますが、登録している端末の数が100台を超える場合など設定が非常に困難な場合は、オンラインページ上から複数の端末を選択して他のユーザーへ一括で共有を行うことができます。

※ オンプレミスライセンスの場合、事前に ISL Conference Proxy 管理画面での設定が必要です。

端末の共有は、以下の方法から選択できます。

- 一斉グルーピング(後述の手順をご参照ください)
- · グルーピングの自動登録(オンプレミスライセンスのみ)\*
- ・ グループの共有(3.4参照)
- ※ ISL Conference Proxy 管理画面にて設定を行います。 詳細は、別紙『ISL Conference Proxy 管理者ページマニュアル』をご参照ください。

### ■一斉グルーピング

- オンラインページにログインします(3参照)。
   ※グルーピングを行う端末に対して接続できるユーザーでログインします。
   (ユーザー「test」で接続できる端末を「test2」に紐付ける場合は、「test」でログイン)
- 2. [常駐接続]を選択します。
- 3. [一括操作]-[一斉グルーピング]を選択します。

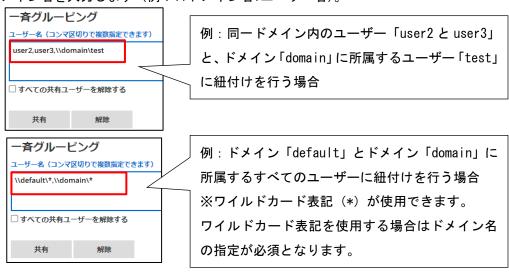




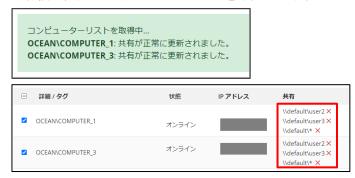
4. 実行画面が表示されます。共有したい端末にチェックを入れます。



5. ユーザー名の欄に端末を共有するユーザー名を入力します(複数のユーザーへ共有する場合はコンマ区切りで入力)



- 6. [共有]を選択します。
- 「共有が正常に更新されました」と表示されたら完了です。
   共有欄に設定が反映されていることを確認します。



以上で一斉グルーピングの手順は完了です。

共有を行ったユーザー名(例: user2)でオンラインページにログインすると、常駐端末の一覧に共有された端末が表示されます(共有端末は種類欄に「共有」と表示されます)。



#### ➡ (補足)

共有を解除する際は、各端末の共有欄に表示されているユーザーの[×]を選択するか、共有を解除する端末にチェックを入れた後、共有を解除するユーザー名を入力して[解除]を選択します。



- ※ 共有を解除する場合は、同一ドメイン内のユーザーでも「¥¥default¥ユーザー名」の形式で入力する必要があります(¥はバックスラッシュで表示されます)。
- ※ [すべての共有ユーザーを解除する]にチェックを入れて解除を選択した場合、ユーザー名 の入力に関わらず、すべてのユーザーが解除されるのでご注意ください。

# 7 ISL Always0n のアップグレード方法

ISL AlwaysOn のアップグレードは以下の方法から選択可能です。ご利用のライセンスの種類やクライアントの登録台数、アップグレードの実行者、社内ポリシーやネットワーク環境(回線速度など)を考慮の上、ご都合の良い方法をご選択ください。

## ■各アップグレード方法およびライセンス毎の実施台数の目安

		端末台数			
アップグレード方法	概要	オンプレミス		パブリック	
				クラウド	
		1-100	101-	1-100	101-
ー ープッシュマップガレ ビ※1	ISL Conference Proxy から管理	0	Δ	×	
プッシュアップグレード <sup>※1</sup>	者が実施	O		^	
	クライアント端末上のプログ				
自動アップグレード	ラムが自動でアップグレード	0	Δ ×		
	を実施		1		
サイレントインストールに	管理者が資産管理ツールなど				
よる上書き**2	で配布、またはクライアント端		0	0	
	末上で各オペレーターがイン	0			0
	ストーラーを実施				
オンラインページ上でのア	管理者または各オペレーター				
	がオンラインページ上から実	0	Δ	0	Δ
ップグレード	施				
バージョン情報からアップ	クライアント端末上で各オペ	0		_	^
グレード	レーターが手動で実施	0	Δ	0	Δ
アップグレード通知からア	クライアント端末上で各オペ	0			
ップグレード	レーターが手動で実施	0	Δ	Ο Δ	

〇=推奨、△=環境に依存(非推奨)、×=利用不可

<sup>※1 1</sup>回につき、100台程度を目安に実行してください

<sup>※2</sup> 通常ではサイレントインストール用のインストーラーは約 7MB 程度となるため、1 回につき、100 台程度を推奨しますが、サーバーの CPU およびネットワークの負荷状況を見ながら、問題ないようであれば順次台数を増やしても構いません。

#### ■各方法のメリットと注意点について

#### プッシュアップグレード

ISL Conference Proxyの管理画面からクライアント端末を指定し、強制的にアップグレードします。

#### ■メリット

・実行方法が分かりやすく、管理者側で任意のクライアントを選択して実行できます。

#### ■注意点

- ・実行時に、ISL Conference Proxy の管理画面上で実行対象のクライアントにチェックを入れる必要があります。また大量台数のクライアントに対し一斉アップグレードを行う場合は、回線に負担がかかる可能性があります。
- ・ 実行対象のクライアントは、オンライン状態 (サーバーと通信可能) である必要があります。

#### 自動アップグレード

クライアントがサーバーに接続した際に、インストールされている常駐接続(ISL AlwaysOn)のバージョンをチェックし、自動で最新バージョンにアップグレードします。

#### ■メリット

・クライアント側にて自動でアップグレードが行われるため、管理者側の作業が不要になり ます。

#### ■注意点

- ・アップグレードのタイミングは管理者側で制御できません。
- ・大量のクライアント端末が同時に起動した場合 (午前中など)、一斉に自動アップグレード が行われるため、回線に負担がかかる可能性があります。

#### サイレントインストールによる上書き

サイレントインストール用のインストーラーを実行して上書きアップグレードを行います。

#### ■メリット

- ・他の方法と比べ、使用条件 (ISL Conference Proxy のバージョンなど) が特にありません。
- ・ 資産管理ツールなどで配布して実行できるため、アップグレードのタイミングが管理者側 で管理できます。
- ・大量台数のクライアントが存在する場合でも、任意のタイミング(および台数)で段階的 にアップグレードを行うことができるため、回線にかかる負荷をコントロールできます。

#### ■注意点

・ System アカウントでインストールを実行する場合は、サイレントインストーラー作成時に 追加オプション(6.1.1 参照)を追記する必要があります。

### オンラインページでのアップグレード

オンラインページ上で、表示されているクライアント端末に対し一斉にアップグレードを行います。

#### ■メリット

・実行方法が分かりやすく、オペレーターが(自分がアクセス可能なクライアント端末の中から)任意の端末を選択して実行できます。

### ■注意点

- ・オペレーターが任意のタイミングで実行できるため、アップグレードのタイミングは管理 者側で制御できません。
- ・実行時、対象のクライアント端末は「オンライン」の状態になっている必要があります。

#### バージョン情報からアップグレード

最新版のプログラムがリリースされている場合、タスクトレイの[バージョン情報] からアップ グレードをすることができます。詳細は、バージョン情報 をご参照ください。

### ■メリット

・実行方法が分かりやすく、オペレーターが(自分がアクセス可能なクライアント端末の中から)任意の端末を選択して実行できます。

# ■注意点

・オペレーターが任意のタイミングで実行できるため、アップグレードのタイミングは管理 者側で制御できません。

### アップグレード通知からアップグレード

最新版のプログラムがリリースされている場合、メインウィンドウを開くとアップグレードに 関する通知が表示されます。

#### ■メリット

・実行方法が分かりやすく、オペレーターが(自分がアクセス可能なクライアント端末の中から)任意の端末を選択して実行できます。

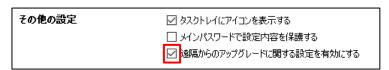
#### ■注意点

オペレーターが任意のタイミングで実行できるため、アップグレードのタイミングは管理者側で制御できません。

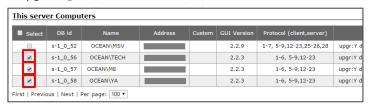
# 7.1 プッシュアップグレード

ISL Conference Proxyの管理画面から端末を指定して特定のバージョンへアップグレードできます。

- ※ オンプレミスライセンスをご利用の場合に限ります。
- ※ アップグレードを行う ISL AlwaysOn の[設定]-[基本設定]-[その他の設定]-[遠隔からの アップグレードに関する設定を有効にする] にチェックが入っている必要があります (初期値:オン)。



- 1. ISL Conference Proxyの管理画面から[Activity monitor]-[Sessions]-[Active]のページを開きます。
- 2. ページ内[This server Computers]の端末のリストから、アップグレードを行いたい端末の [Select]にチェックを入れます。プッシュアップグレードができる端末は「Supports」 欄に 「upgr: Y」と表示されています。



3. ページ下部の [Push Upgrade to selected] にチェックを入れ、インストールを行う ISL Always On のバージョンを選択します。

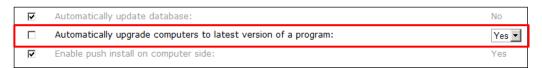


4. [Execute] を選択し、対象の端末に対してアップグレードを実行します。

### 7.2 自動アップグレード

ISL Always0n をインストールしている端末が ISL Conference Proxy サーバーと通信を行った際にバージョン確認を行い、最新でなければ自動でアップグレードさせることができます。

- ※ オンプレミスライセンスをご利用の場合に限ります。
- ※ アップグレードを行う ISL AlwaysOn の[設定]-[基本設定]-[その他の設定]-[遠隔からのアップグレードに関する設定を有効にする] にチェックが入っている必要があります(初期値:オン)。
- 1. ISL Conference Proxyの管理画面から [Configuration]-[ISL Always0n] のページを開きます。
- 2. [Automatically upgrade computers to latest version of a program] のチェックを外し、ドロップダウンメニューから [Yes] を選択します。ページ右下の [Save] を選択して変更を保存します。



3. 以降、ISL AlwaysOn の[設定]-[基本設定]-[その他の設定] で [遠隔からのアップグレード に関する設定を有効にする] をオンにしている端末が ISL Conference Proxy のサーバーと 通信を行うと、自動でアップグレード (サイレントインストール) が実行されるようになります。

#### 7.3 サイレントインストールによる上書き

サイレントインストールによる上書きを行い、最新のバージョンへアップグレードできます。

- ※ 下記の URL から取得したインストーラーは約 7MB 程度になるため、複数台で一斉にアップ グレードを行うと実行時にサーバーの CPU およびネットワークに負荷がかかる可能性があ ります。アップグレードは1回につき、100台程度を目安に実行してください。サーバー の CPU およびネットワークに負荷状況を見ながら、問題ないようであれば順次台数を増や しても構いません。
- ※ 対象が Mac の場合、各 URL の「download」を「start」に編集してください。

## ■パブリッククラウドライセンスの場合

以下の URL から取得したサイレントインストーラーを配布して展開を行ってください。

https://www.islonline.net/download/ISLAlwaysOn?cmdline=%2FVERYSILENT+skip\_check\_sta
rt+quit

# ■オンプレミスライセンスの場合

ISL Conference Proxyのアップグレードを行った後、以下の URL から取得したサイレントインストーラーを配布して展開を行ってください。

http:// 〈サーバーの IP アドレスまたはホスト名:ポート番号〉/download/ ISLAlwaysOn?cmdline=%2FVERYSILENT+skip\_check\_start+quit

例:サーバーの IP アドレスが「192.168.0.1」、ポートが「7615」の場合 http://192.168.0.1:7615/download/ISLAlwaysOn?cmdline=%2FVERYSILENT+skip check start+q

http://192.168.0.1:7615/download/ISLAlwaysOn?cmdline=%2FVERYSILENT+skip\_check\_start+cuit

※ System アカウントで実行する場合は、「skip\_check\_start+quit」の前に 「ignore\_system\_account+」を追記します。

# ■パブリッククラウドライセンスの場合

https://www.islonline.net/download/ISLAlwaysOn?cmdline=%2FVERYSILENT+ignore\_system\_
account+skip\_check\_start+quit

# ■オンプレミスライセンスの場合

http:// 〈サーバーの IP アドレスまたはホスト名:ポート番号〉/download/ ISLAlwaysOn?cmdline=%2FVERYSILENT+ignore\_system\_account+skip\_check\_start+quit

### 7.4 オンラインページ上でのアップグレード

オンラインページ上から端末を指定して最新のバージョンへアップグレードできます。

- ※ アップグレードを行う ISL AlwaysOn の[設定]-[基本設定]-[その他の設定]-[遠隔からの アップグレードに関する設定を有効にする] にチェックが入っている必要があります(初期値:オン)。
- ※ アップグレードを行う端末がオンライン状態であり、サーバーとの通信を正常に行っている必要があります。
- ※ 別のユーザーが所有する端末を、共有されたユーザー側でアップグレードすることもできます。
- 1. オンラインページにログインします(3参照)。
- 2. [常駐接続]を選択します。
- 3. 必要に応じて、アップグレードを行う端末の検索を行います(3.3参照)。



4. アップグレードを行う端末がオンライン状態であることを確認した上でチェックを入れ、 画面右上の[一括操作]-[エージェントアップグレード]を選択すると、表示されている端 末の上から順にアップグレードが実行されます。



5. アップグレードが開始されると、画面上に「エージェントのアップグレードを開始しました。」のメッセージが表示されます(ライセンスの種類や ISL Conference Proxy のバージョンによってメッセージが異なります)。

### 7.5 バージョン情報からアップグレード

最新版のプログラムがリリースされている場合、タスクトレイの[バージョン情報] からアップグレードをすることができます。詳細は、4 タスクトレイ(システムトレイ)のメニュー説明の バージョン情報 をご参照ください。

### 7.6 アップグレード通知からアップグレード

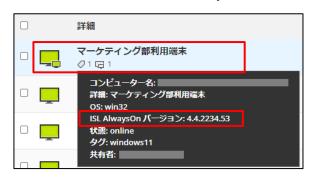
最新版のプログラムがリリースされている場合、設定画面を開くとアップグレードに関する通知が表示されます。アップグレードする場合は、[はい]を選択します。



#### ■アップグレード後の確認方法について

#### オンラインページ上で確認する方法

オンラインページ上で、端末名またはアイコンの上にマウスポインタをあてると、現在ご端末にインストールされている ISL Always On のバージョンが確認できます。



### クライアントの端末上で確認する方法

クライアントの端末上で ISL Always0n のバージョンが確認できます。

利用可能なアップグレードがある場合は、クライアント側でアップグレードを行うこともできます。

タスクトレイの ISL AlwaysOn アイコンを選択し、[バージョン情報] を選択します。



### 8 アンインストール方法

### プログラムのアンインストール

#### ■Windows の場合

- ISL Always0n のサービスを停止します。
   Windows のスタートメニューから[コントロールパネル]-[管理ツール]-[サービス] を選択して、[ISL Always0n Service]を停止します。
- 2. ISL Always0n のアンインストールを行います。
  [コントロールパネル]から[プログラムの追加と削除]または[プログラムと機能]-[ISL Always0n] を選択して、[削除]を選択します。

# ■Mac の場合

1. Finder の [アプリケーション]-[ISL Always0n]-[ISL Always0nUninstall.app] を起動して、プログラムをアンインストールします。

#### ■Linux の場合

- ターミナルを起動し、以下のコマンドを実行します。
   sudo /opt/ISLOnline/ISLAlwaysOn/uninstall.pl
- 2. 管理者ユーザーのパスワードの入力を求められた場合は入力します。

# 関連ファイル・レジストリの削除

ユーザー情報やアクセスパスワードなどの接続ための設定値や接続履歴などを含む、すべての 関連ファイルを削除する場合は、以下のフォルダー及びレジストリキーを削除します。

### ■Windows (32bit) の場合

C:\percentage C:\percentage C:\percentage Program Files\percentage ISL Online\percentage ISL AlwaysOn (ISL AlwaysOn インストールフォルダ)
HKEY\_LOCAL\_MACHINE\percentage SOFTWARE\percentage ISL Online\percentage Grid
HKEY\_LOCAL\_MACHINE\percentage SOFTWARE\percentage ISL Online\percentage ISL AlwaysOn

# ■Windows (64bit) の場合

C:\pmace C:\pmacee C:\pmace C:\pmace C:\pmace C:\pmacee C:\pmacee C:\pmacee C:\pmace C:\pmacee C:\pmacee C:\pmacee C:\pmacee C:\pmacee C:\pmacee C

#### ■Mac の場合

/etc/islonline/AutoTransport/
/etc/islonline/Grid/
/etc/islonline/ISL+Alwayson/
/library/Application Support/ISLAlwaysOn/
/.islonline/
/.xlab/

#### ■Linux の場合

/opt/ISLOnline/ISLAlwaysOn/
/var/opt/ISLRuntime/
/etc/islonline/AutoTransport/
/etc/islonline/Grid/
/etc/islonline/ISL+AlwaysOn/

ご不明点や不具合などがございましたら、下記 ISL Online FAQ ページをご参照ください。 https://www.islonline.jp/help/index.html

ISL Online 製品に関するお問い合わせはメールのみになります。 電話でのお問い合わせは受け付けておりませんのでご了承ください。

製品の詳しい情報については、以下の ISL Online ウェブページをご参照ください。https://www.islonline.jp/

ISL Online 開発元 XLAB d.o.o.

URL: https://www.xlab.si/



ISL Online 国内総販売代理店 株式会社オーシャンブリッジ

URL: https://www.oceanbridge.jp/

